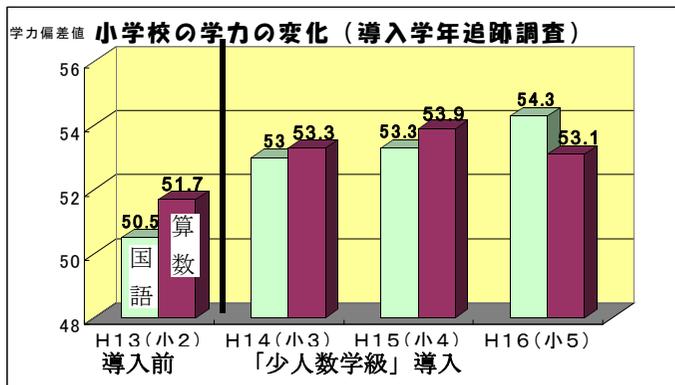


山形県における「少人数学級編制」の効果

学力の向上

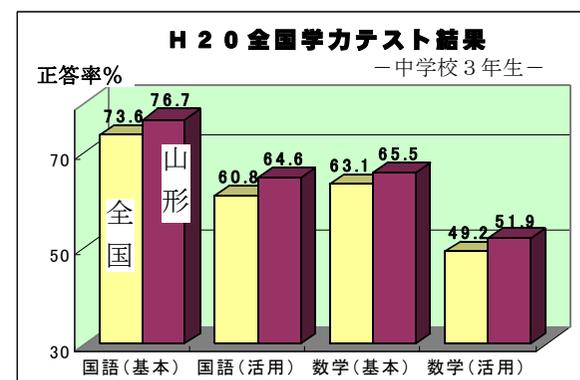
小学校への少人数学級編制導入後実施校学力(全国標準学力検査NRT)の平均が、導入前と比較して向上し、その後も高い水準を維持し続けた。

追跡調査を続けた子どもたちは、平成20年度(中学校3年生時)の全国学力・学習状況調査で、全国4位(国語)という結果であった。



3年後

全国学テ
国語で
全国4位

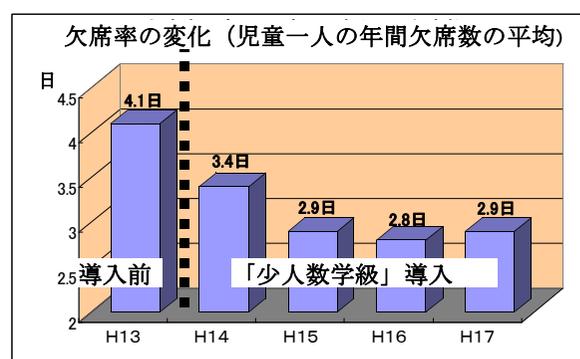
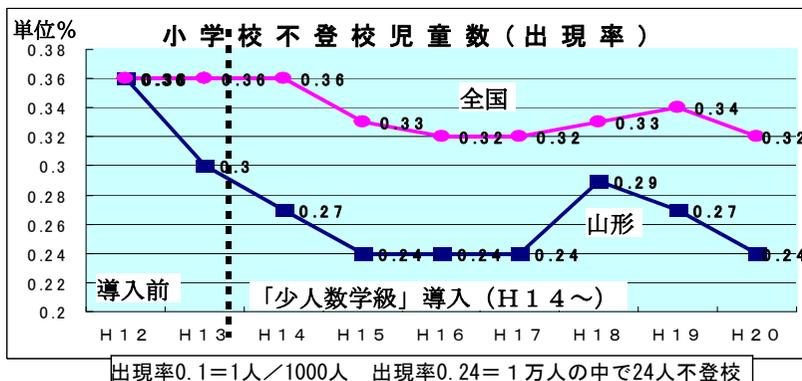


◇文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果」より

◇県独自調査「児童の欠席日数調査」より

不登校の減少、欠席率の低下

不登校の出現率が、導入前は全国平均と同じであったが、H13年のやまびこプラン(少人数指導加配教員の配置)、H14の少人数学級導入後に下がり、その後も低い水準を維持している。また、欠席率も低下した。



◇効果が生まれた要因

制度が変わり→教員の意識が変わり→そして、授業が改善され、「効果」が生まれた。

①少人数学級編制

- 教室にゆとり
- 心にゆとり
- 担任業務にゆとり

②教員の意識

- 耳を傾けよう
- 声をかけよう
- 手をかけよう

+

+

③少人数学級の利点を活かした授業改善

